

玉造教会ニュース

12月号

発行：玉造教会 評議会

編集：玉造教会 広報委員会

シャローム

〒540-0004

大阪市中央区玉造2-24-22

TEL 06-6941-2332

FAX 06-6941-2605

2016年12月4日 409号

事務室の窓から—主の訪れを待つ— シスター 梶野芳子

玉造教会の事務室で働き始めて早くも3ヶ月。一日一日を恵みで満たしてくださる神様、そのお方は喜ぶ人・悲しむ人と共に歩まれる。と、改めて気づいたことがありました。

主日には国際色の豊かな多くの信者の皆さまを通して、また何の変哲もない平日には思いもよらない出来事などがそのきっかけです。そして、わたしたちは神様の綺麗なキャンパス、そのお方の描かれる画幅に乗せられているものだなと感じます。神様からの祝福がありますようにと、教会に足を運ぶ方々に願わずには居られません。

事務室で自分という存在の意味を問うてみますと、接点と浮かんできます。神様、司祭たち、信徒同士、それに教会に初めて来られる方々との交わりの接点。そういった交わりがより良いものになる為に何らかのお役に立つことを願うのです。

ポツンと独りぼっちに置かれたような出来事が人々との出会いを通して意味あるものとして新たに表れる。言い換えると、今の自分と全く関係のなかったような過去の出来事が今と深く結ばれてくる体験。点と点が繋がり一つの線になる。その線を引いて下さる神様。隠されていたものの覆いは外され、真理へと導かれていく自分をそういう体験を通して感じるのです。一言で偶然と片づけ得ない、不思議としか言いようがないこと。それを神様の導きだともうやく納得し信じ、そして賛美するのです。あのお方を。

待降節が始まりました。救い主を待ち望んでいた旧約の民のように、今2016年イエス様の降誕を待ちに待ちたいものです。いのちのみことばを心に留め、思いめぐらし、具体的な生活の中に形にしていく。はい、そうです。受肉の神秘が自分の中で行われるように願う。正に聖母マリアの心と行いです。

私と共同体のシスターたちがこの時期唱える祈りで終りに致します。

主よ、みことばをください。

わたしに存在を与えてくださったあなたの愛のみことばを感謝するために。

主よ、真の沈黙をください。

倦むことなく、わたしを求め探されるあなたのみ心の秘義を礼拝するために。

主よ、喜びの歌をください。

迷いの続くわたしの生涯の歴史の中で、絶えず新たにされるあなたのあわれみとの出会いを記念するために。

主よ、謙遜な心をください。

無に過ぎないわたしを必要とされるまでに自らを無とされたあなたの清貧の秘義を悟るために。

主よ、あなたがわたしにとって“喜びの訪れ”となるために、あなたの使命に深く分け入らせてください。

(Lezionario meditatio I (avvento-epifania) p.74 参照)